

科目名	児童・家庭福祉 I					担当教員	森和子		
学年	2年	クラス	1	開講学期	前期	開講時期	前期	曜日・時限	月2
授業の目的	<p>〔授業の目的・ねらい〕          授業の目的は、児童・家庭の定義と権利を踏まえ、児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する。児童・家庭福祉の定義や歴史の経過を経て児童・家庭福祉とは何かについて共通理解をした上で、児童家庭福祉の実態や課題、そして展望について理解できるようになることである。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.児童家庭福祉の意義及び歴史的展開過程について理解できるようになる。</li> <li>2.児童家庭福祉の法律、制度、福祉機関、施設を体系的に理解できるようになる。</li> <li>3.児童と家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、人権擁護、児童福祉ニーズ(子育て、ひとり親家庭、児童虐待、ドメスティックバイオレンスなど)に対するサービスの現状と課題を理解できるようになる。</li> <li>4.児童家庭福祉の専門職としての社会福祉士、保育士などの役割や現状と課題について理解できるようになる。</li> </ol>								
学習演題	<p>〔授業全体の内容の概要〕          児童福祉の意義及び歴史的展開過程、児童・家庭に対する法制度や児童・家庭に対する支援における関係機関と専門職の役割を理解し、児童・家庭に対する支援の実態を学ぶ。</p> <p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション/児童家庭福祉とは何か－人権擁護の視点から</li> <li>2 現代の社会と子どもの生活/子どもの生活環境の変化</li> <li>3 子どもの成長や発達と子育てをめぐる問題</li> <li>4 児童・家庭福祉の理念と概念</li> <li>5 児童家庭・福祉の歴史</li> <li>6 児童・家庭福祉行財政・施策と法体系</li> <li>7 児童・家庭福祉の行財政と制度</li> <li>8 児童・家庭福祉と保育</li> <li>9 児童・家庭福祉と社会的養護－児童虐待・ドメスティックバイオレンス</li> <li>10 非行問題</li> <li>11 障害児問題</li> <li>12 次世代育成支援と子どもの遊びの保障</li> <li>13 児童・家庭福祉の専門職</li> <li>14 児童福祉施設と連携ネットワーク</li> <li>15 まとめ 世界の子どもたち&amp;児童家庭福祉の今後</li> </ol> <p>&lt;1～3回&gt; 予習:教科書の次回の章を読んでおく(約90分程度)。復習:その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと(約90分程度)。          &lt;4～6回&gt; 予習:教科書の次回の章を読んでおく(約90分程度)。復習:授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を集めておくこと(約90分程度)。          &lt;7回～10回&gt; 予習:教科書の次回の章を読んでおく(約90分程度)。復習:授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を集め、調べておくこと(約90分程度)。          &lt;11回～15回&gt; 予習:教科書の次回の章を読んでおく(約90分程度)。復習:その日の章のキーワードを整理し、調べておくこと(約90分程度)。</p>								
授業方法	<p>授業のはじめに、その日の授業に関連するワーク資料を配布して作業を通して主体的に授業に参加できるようにしている。授業は講義をする中で、視聴覚教材や資料を用いて具体的に現実にある子ども家庭福祉の事例を通して学びを深め、そこから課題解決(PBL)の糸口を学習する。リアクションペーパーで学生の理解度を確認し、次週に復習を兼ねてフィードバックする。学生は積極的に参加し意欲的な学習態度を求める。</p>								
成績評価の基準	<p>〔単位認定の方法及び基準〕          筆記試験(60%)、リアクションペーパーによる理解度(20%) 発言などの授業態度(20%)により総合的に評価する。毎授業のリアクションペーパーの質問や気づいたことに関しては、次回の授業の冒頭でコメントして学生にフィードバックし、適切に授業の意図を理解していた学生は評価の対象とする。授業終了後には質問を受け付け、随時学生の疑問にフィードバックできるよう努めている。</p>								
教科書	松本園子・堀口美智子・森和子編著『子どもと家庭の福祉を学ぶ』ななみ書房 2017年 ISBN 978-4-903355-66-5								
参考書	必要に応じて指定する。								